

令和五年度 入学式 式辞

例年より早く咲き誇った桜に代わり、中庭の樹々には新たな芽が伸びてきました。春爛漫の今日の佳き日に、大阪府立野崎高等学校 第四十八回 入学式 を挙行する事ができますことは慶びに堪えません。

また、PTA 役員の皆さま並びに、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、高いところからではございますがお礼を申し上げます。

只今、入学を許可された四八期生の皆さん、ご入学おめでとうございませぬ。野崎高校は、皆さんの入学を心から歓迎します。

保護者の皆様におかれましては、野崎高校の新しい制服を着たお子様の姿をご覧になり、感慨も一入の事と拝察いたします。

お子様のご入学、誠におめでとうございませぬ。心からお慶び申し上げます。

また、本日、ご自宅に帰られましたら、普段はなかなか口にし難い言葉ですが、「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを込めてお子様に「おめでとう」と伝えていたきたいと思ひます。

さて、新入生の皆さん。今日から野崎高校の第四八期生として、高校生活がスタートします。新しい生活を始めるにあたり、皆さんに伝えたい事をお話します。

皆さんは野崎高校がどのような学校だと思ひているでしょうか。心配であったり、楽しみであったり、不安と期待が混ざり合つた、複雑な心境でしょう。

ひとつの話を紹介いたします。ある町がありました。そこに一人の旅人がやってきました。町の入り口に老人が座っていたので、旅人はその老人に尋ねました。

「この町はどんな町ですか」。老人は答えます。「あなたが今までいた町はどんな町でしたか」。旅人は答えました。「前にいた町は、嫌な人ばかりでろくな町じゃなかったよ」。老人は答えました「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」。

また別の日に別の旅人がやってきました。同じやり取りの後、旅人は答えました。「私が今までいた町は、すばらしい町で、人々は親切で、あんなによい町はありませんでした」。老人は答えました「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」。

これは有名な逸話です。いろいろな言い方があるようですが、二人の旅人が来た町は同じ町です。

この話が教えてくれるのは 環境は「その人の心が決める」ということです。我々が何のために学ぶのか。これは環境をよりよく作るために学んでいます。

周りの環境のせいにし、不平不満を言いながら人生を歩むのか、周りの環境を作ることが出来る人となり、様々なものに感謝の念を抱きながら人生を歩むのか。

環境を作るのは「その人の心」です。

本校では、「夢を見つけて夢を叶える」をスローガンに、校訓である「自律・自主・創造」を体現する生徒の育成、そして「生徒支援と安全安心な学校づくり」を教職員が一丸となり、進めています。

人生において二度と無い貴重な3年間の高校生活。皆さんの高校生活が充実したものになるかどうか、その鍵を握っているのは皆さん「一人ひとりの心」です。

どうぞ先生方を頼ってください。私たち教職員は前向きに取り組む皆さんを全力でサポートします。三年後皆さんが「私が今までいた学校は、素晴らしい学校で、人々は親切で、あんなによい学校はありませんでした」と言い合えるよう、一緒に頑張りましょう。

最後になりますが、保護者の皆さま、大切なお子様を本日より本校の生徒としてお預かりいたします。より良い学校教育には家庭と学校との連携・相互理解が不可欠です。

我々教職員は、お子様が野崎高校で「夢を見つけて夢をかなえる」ことを願い、力を合わせ指導に当たる所存です。

保護者の皆さまにおかれましても、本校の運営に際しまして、ご理解とご協力をお願いを申し上げます。式辞といたします。

本日はご入学 誠におめでとうございます。

令和五年四月十日

大阪府立野崎高等学校
校長 田中 眞